



子どもたちの活動の流れ

・たがやす

前回からのつなぎ+しかけの爆発力増加のために

☆いきなり教師から「めあて」を提示するよりも子どもとのやりとりの中から、本時のめあてを提示するほうが○

・しかける

(例) 判断をうながすしかけ (発問・学習活動など)

・ひろげる

「個の考え①」の広がり (Aさん・Bさん・Cさん…)

・ふかぼる

「場の交流」の深まり (T:「だったら…、じゃあ…」)

・うながす

(T:「どういうこと?」「もうすこし教えて」)

☆つぎの課題に向かう切り返しを用意しておく

本時で教えたい・気づかせたいこと「ねらい」はどこに?

ア) 順序について自分なりに考えたら OK?

イ) 順序とその理由を書くことができたなら OK?

ウ) 順序とその理由を他者の考えに触れて広げるため?

図鑑を作るために、順序を考えることは学習にとってどのような役割を果たすだろうか?

→ポイントになるのは、「なぜ、便利さで、このようにならべたか」という理由を書くこと。「順序にはきちんと理由があるのだ」という認識を獲得するため! (教科書の事例の順序は?)

→今回はそのためのグループワークだったはず

グループワークのバリエーション

ア) 同じテーマで個別・グループ

イ) それぞれのテーマ・考えをもとに、個別・グループ

ウ) 考えや意見やテーマをそもそも考える

→広げて・深める対象はどこにあるのか「ねらい」によって使い分ける

子どもたち同士のやりとりにおいて、ねらいをもって場を設定する

「考えの形成」をうながす、学習指導

考えることも形成することも「過程(プロセス)」と「結果(ゴール)」の2つの像がある

「過程」…学習者が頭を働かせるという行為(場面)

「結果」…その行為によって、得られた成果(理解や考え)

☆毎時間の「考えの形成」と単元終盤での「考えの形成」がある!

考えを形づくるためには、第2次までに(←ここで「精査・解釈」)頭を働かせて、もがいたり、まよったり、気づいたりする過程が必要!

そのために、子どもの考えを「カオス」になってもいいから出す!そこからみんなで考えて

いく!